

77 同志社大学 グローバル地域文化学部 グローバル地域文化学科合格
愛知県立大学 外国語学部 国際関係学科合格 / 35回生 2016年(平成27年度)卒

勉強法に関しては、他の人の色々なやり方を知った上で自分なりに工夫した勉強法でやるのが一番長続きすると思います。それを早く見つけて下さい。

勉強法とは別に、受験において自分がこの一年間で大切だと感じたことを3つ記しておきたいと思います。

1つ目は、「臆病でいること」です。

勉強時間が少ない時や勉強していてもなかなか成績が伸びない時には、「このままでは第一志望には受からない」と思い、勉強がしっかりできている時や成績が伸びた時には、「ここで気を抜いたらすぐに成績は落ちる」と思うことで、第一志望に向かって最後まで頑張ることが出来るはずです。

2つ目は「人との繋がり」です。

これは意外だと思うかもしれません、これも受験にとって重要な要素だと思います。勉強に疲れた時や辛くなったら、周りの勉強している友達を見たり友達や先生に相談したりすれば、やる気は元に戻るどころか前より強くなるはずです。そして家に戻れば家族が後押ししてくれるはずです。成績が上がり実力が伸びても、決して驕る事なく、周りの人への感謝を忘れず、謙虚に努力し続けてください。

3つ目は「気持ち」です。

まずは、たとえ今の自分の実力とは、はるかにかけ離れていても、自分が本当に行きたい大学を見つけ、そこを目標に強い気持ちでひたすら勉強することで、合格の可能性は、はるかに高まります。実際に、僕は3年生最初の成績では絶対に行けなかった第一志望の大学に合格することができました。

みなさんの希望の進路が叶う事を願っています。Keep on trying!!

78 南山大学 人文学部 心理人間学科合格 / 35回生 2016年(平成27年度)卒

受験勉強は、とにかく早く始めることが大事だと思います。私は2年の秋頃から真剣に勉強を始め、部活を引退すると、すぐ友達と毎日学校に残ることに決めました。学校に残って勉強するのが一番だと思います。一緒に頑張れる友達の存在がとても大きかったです。その頃、残らずに家に帰っていた友達は、後になって「4月から残ればよかった」と言っていました。学校は本当に集中できます。それにすぐ先生に質問でき、その場で分からぬところを解決できます。先生に教えてもらったところはより理解が深まるし、忘れにくいです。

また、放課後だけでなく朝学も本当に重要だと思います。私は毎日欠かさず朝学に参加しました。そして入試が近くなると、7時前には登校して勉強を始めました。朝学は勉強がはかどるだけでなく、1日の正しい生活リズムを作れます。

次に私のオススメの勉強法を1つ紹介します。それは分からなかったところを必ずノートに書いておくことです。毎日プリントの英単語など、スルーしがちですが、とても大事です。世界史は大事なところは何度も出てくるので、一度間違えたところはノートに書いて繰り返し復習するといいと思います。

さらに、生活面で実行したことも紹介します。私は夏のマーク模試でひどい点数を取り、本当に落ち込みました。ですが、その日からテレビやスマホを一切やめ、勉強だけに集中することに決めました。今では、あのひどい点数による奮起があったからこそ生活面が改善でき、第一志望の大学に合格できたのだと思っています。

私は何度も受験をやめたい、勉強をやめたいと思いましたが、実際に勉強をやめたことはありません

んでした。諦めず努力し続ければ必ず結果は出ます。仲間と切磋琢磨し、頑張ってください。

79 南山大学 総合政策学部 総合政策学科合格

山梨県立大学 国際政策学部 総合政策学科合格 / 35回生 2016年(平成27年度)卒

受験勉強で大事なことは2つあると私は思います。

一つ目は志望校を早く決めることです。私には特に行きたい大学もなく、勉強もしたくなかったので、最初の模試はよく考えずに志望大学を書いていました。しかしその後、担任の先生に、「南山大学を書いてみろ」と言われて書きました。そしたらC判定で、意外にも狙える位置だと分かりました。でも、まだその頃の自分にはやる気が足りず、勉強が嫌で、その一つ下のランクの大学に行ければ満足だと思っていました。しかし、担任以外の先生方や友達にも南山を目指した方がいいと言われたので、とりあえず赤本を買ってみました。その結果やる気が出て、10月くらいから本格的に勉強し始め、何とか南山大学に合格することが出来ました。

このように、私が合格できたのは第一志望校を明確に決定したからだと思います。それでも、私は本格的な勉強に入った時期がかなり遅かったなど今更ながら思うので、みなさんにはより早い時期から志望校を決め、そこに向かってできるだけ早く本格的な勉強を始めることで、より合格に近づいて欲しいと思います。

そして、もう一つ大事なことは、どのように勉強するかだと思います。私は勉強の集中力が1時間くらいしか続かないで、夏休みの学校がない日や土日でも3時間くらいしかしていませんでした。周りには私の倍以上勉強している人もいましたが、集中力がない状態でやっても意味がないと思い、短い時間でしっかり集中することを心がけました。それが合格できた要因なのだと思います。最低限必要な勉強時間を確保しながら、自分にあった勉強の仕方を早く見つけてください。そして最後まで頑張ってください。

80 南山大学 外国語学部 英米学科合格 / 35回生 2016年(平成27年度)卒

まず、まだ受験生の自覚がない皆さん、早急に気持ちを切り替えましょう。切り替えのコツは、行きたい大学を決め、そこに向けて頑張るとか、スマホ内のゲームアプリを消すとか、色々あります。

私は、3年生になるまで勉強を一生懸命したことありませんでした。でも、3年になって、このままでは絶対ダメになってしまうと思い、全力で勉強してみようと決め、4月からずっと頑張ってきました。おかげで、模試の結果はそれなりに上がっていきました。ただ、英語だけは思ったように上がらず、秋頃までそのままでした。

私はどうしても成績を上げたくて、分からぬ所は先生に聞き、年上の従兄弟や先輩に色々アドバイスをもらいました。そして、自分の勉強法が確立できた時、点数が飛躍的に伸びました。私は問題を解いている時、分からぬ部分にあたるとそこで長考する癖がありましたが、それを無くし、数秒考えて分からなからたら即飛ばすという解き方に変えました。たったこれだけのことですが、効率が良くなり、点数も安定しました。あとから考えてみると、基礎は固まっていたので、やり方の問題だったのかなと思います。

それからはもうずっと勉強していました。とりあえず過去問をたくさん解き、時間を測り、常に本番を意識していました。休憩する時もリスニングをしながらでした。

そして、入試を終え、無事第一志望に合格しました。合格した時の喜びは本当に何物にも変え難いものでした。今までの苦労が報われたと思いました。

最後まで走りきれたのは、本当に先生方や共に高めあってきた周りのおかげです。皆さんも、なにか困ったことがあつたら周りの人を頼りましょう。そして、自分自身の勉強法を身につけましょ

う。

受験生の皆さんのご健闘をお祈りします。がんばってください！

81 南山大学 人文学部 心理人間学科合格／35回生 2016年(平成27年度)卒

受験生という自覚をもったのは3年生になってからでした。1、2年生の時は定期テストの時だけ勉強をし、休日は友達と遊ぶ日々でした。課題も適当にやって提出をしていました。今だから言えることですが、そんな過ごし方をしていた自分が、よく大学に受かったなと思います。それと同時に、たくさんやり残したことはあるし、まだまだやるべきことはたくさんあったと実感しています。

勉強のスタートは早ければ早いほどいいです。私の場合は、3年生の5月頃から受験に向けて計画を立てていきました。この時点ではまだ志望大学が見つかっていませんでした。志望大学を見つけたのは夏休み頃でした。私は吹奏楽部だったので、他の人達よりも部活が終わるのが遅く、8月上旬まで部活を続けていました。同じ部のメンバーとは、補習に行くか部活に行くかについて相談の毎日でした。勉強と部活の両立が難しかったです。ですが、どちらも頑張っている部員を見たり、クラスメートの子が出られなかつた補習の分のノートを見せてくれたり、先生に相談したり質問したりすることで、頑張ろうという気持ちがいっそう強まり、受験勉強と部活動のどちらにも集中することができました。

もう一つ、受験において大切なことは、朝型の生活にすること、計画を毎日立てて計画通りに勉強すること、誘惑に負けないことだと思います。これは先生方が何度も言ってくれたこともあります。私は朝7時20分までには絶対学校につき、勉強をすることを目標にして、それを1年間続けました。すると、テレビや携帯電話の使用量は一気に減りました。この方法が正しいかわかりませんが、私はこの方法で、最後の模試までE判定だった大学に合格することができました。受験は最後まで何が起こるかわかりません。つらいことはたくさんあると思いますが、仲間や先生、そして、自分が日頃積み重ねてきた努力を信じて、最後の最後まで諦めずに頑張ってください。

82 筑波大学 人文・文化学群 比較文化学類合格

同志社大学 グローバル地域文化学部 グローバル文化学科合格／35回生 2016年(平成27年度)

卒

僕はおそらく一般的な南高生とは異なった受験期を過ごしてきました。僕の周りの友達は3年生になってからか、部活を引退してから受験生として本格的に勉強を始める人がほとんどだったと記憶しています。おそらく早い人でも2年生の冬くらいに受験勉強を始めたと思います。しかし、僕は2年生の春に、所属していたソフトテニス部を思い切って引退し、受験勉強を始めました。

こんなに極端に早く受験勉強を始めた理由は色々あるのですが、主な理由としては、部活を言い訳に学校の勉強をおろそかにしていたこと、今までろくに勉強せずゲームと遊びに明け暮れていて何も成し遂げていない自分が情けなくなつたこと、そして何よりもどうしても行きたい大学を見つけたことが挙げられます。1年生の頃の成績は300人中100位くらいで、パッとしない成績だったと記憶しています。今までまともに勉強してこず、要領の悪い僕が確実に志望校に受かるには、とにかく早めに受験勉強を始め、安定した学力をつけるしかないと考えました。部活を辞めることに関しては、親にも先生にも友達にも「どうせ勉強しなくなるのだから」と言って反対されました。僕は「ここで引き下がったら部活も勉強も中途半端になつて何も残らない。絶対に志望校に合格して見返してやる」と心の中で野心をメラメラ燃やし、反対意見をバネに頑張りました。そして、自分にとってのマイナス意見を全部バネにしてやり抜くことの大切さを学びました。苦難の多い受験勉強において、この考え方はとても大切です。プラス思考はとてもお勧めです。また、先生方からは的確なアドバイスもたくさん頂けるので、話をよく聞き、取捨選択することも大切です。

学校の補習やドリカムはすべて参加しました。とくに学校のセンター試験前後の補習は、最後の追い込みに大いに役立ったと思います。もし予備校に通っていても、学校の補習には絶対に参加すべきです。もし予備校に行くなら学校と両立できるようにしましょう。共倒れが一番怖いです。おかげで僕は模試ではずっと校内1位で、尾張地区の文系でも某有名進学校のトップにも負けない成績もとれました。ただセンター試験では苦手な数学で見事に撃沈してしまいました。これは苦手科目に目をつむったツケです。難関大を目指す人は、絶対に苦手科目には早期から取り組み克服しましょう。確実に致命傷になります。

「受験勉強にフライングはない」のスローガンのもと、早々と部活を引退してガリ勉街道まっしぐらだった僕ではありますが、学校は、勉強だけでなく、社交性や人の多様性を学ぶ場でもあります。部活動などはまさにそうです。他にも恋に学校行事にと高校生は大忙しです。ただ、僕のようにひたすら勉強の道に突き進む覚悟や信念は、皆さんが受験生となるときに多かれ少なかれ必要となってきます。受験勉強はつらいと思いますが、覚悟と信念を持って継続的に努力すれば結果は必ずついてきます。いつ受験生になるのかはみなさん次第ですが、受験生になったからには、妥協せず強い気持ちを持って前へ前へと進んでいってください。皆さんが自分の志望校、できれば1つ上の志望校に合格されることを願っています。

83 名古屋市立大学 人文社会学部 国際文化学科合格／35回生 2016年(平成27年度)卒

わたしは人よりきっと勉強が嫌いだし、根性もありません。だけど、人より英語が好きで、負けず嫌いでいた。とにかく勉強が嫌いで、夜更かしも大の苦手です。家に帰ると、ご飯を食べてお風呂に入って、家族と喋っていると、あつという間に寝る時間になってしまいます。家で勉強できないのならば学校に行こうと思いました。朝は7時に学校に着くようにし、朝学に参加することを心がけました。

部活が8月まであって、夏休みの補習が出られなくてこのままじゃだめだと思いながらも、そして引退した後でさえも、いつまで経ってもどこかセンター試験は自分にとって関係のない存在に思えて仕方がなかったです。

ところが、冬休みのセンター演習でスイッチが入ったように思います。すごく苦手だった世界史は、冬休みで30~40点上がりました。とにかくセンター演習の復習と、その日の演習問題に出た時代について、資料集や参考書で何度も読みました。国語は授業で解いたセンター試験の過去問や週末課題で力がつき、数学は毎回時間を計って時間内に解き終える練習をしました。理科もセンター演習や授業での演習を大切にしました。大切なのは、授業や補習、課題を最大に活かすことです。こんなのが無駄だとか、もっと他の教材をとか、そんなことは思わないで、言われたものをコツコツとやってみてください。それでも足りなかつたら何か考えれば良いのです。先生方は受験のプロなので、信じてついていってください。

みなさんに伝えたいのは、焦らないこと。焦るあまり、寝る間を惜しむようなことはしないでください。不安だったら早く寝て、明日の朝頑張ればいい。先生が毎朝早くから学校を開けてくださっています。有難く活用してください。そしてまた、焦って部活をやめないでください。これはわたしの個人的体験談ですから、続けることが絶対正しい！とは言えないけれど、最後までやり切ったら何か見えることがあります。それは何事にもかえがたいものです。8月まで部活をやっていたわたしも他のメンバーも、それぞれ進路を決めて歩き出すことができています。焦って進路を変えないでください。わたしは第一志望のこの大学に模試でボーダーに届いたことはなかったし、本番もギリギリという感じで、本当にどうなるか分かりませんでした。楽をして余裕のある大学を受験するか、本当に迷いました。ですが、挑戦をしないで終わっていたら、きっと一生後悔していたと思います。高校受験の時も挑戦をしました。あのときは失敗しましたが、失敗をしたことに何の後悔もありません。とにかく挑戦！模試の判定も、センター後の判定も、ただの目安に過ぎません。参考程度にしておきまし

よう。

ただし、受験生モードに切り替えることに関しては焦ってください。本当に、早く始めることに損はありません。モードが切り替わっていないと、学年集会や進路だよりなどで、色々な情報が伝えられても、なんだか他人事に思えてしまいます。ふと気づけば冬休みです。いつかは自分も切り替わるだろうなんて思っていては遅いです。自分から、準備を始めましょう。自分から、変えていきましょう。

84 岐阜大学 教育学部 学校教育教員養成課程 家政教育講座合格 / 35回生 2016年(平成27年度)卒

自分が受験を終えてやっておくべきだったと感じたことを、いくつか話そうと思います。

I. 自分なりの勉強に集中しやすいやり方を見つけておくこと

私は部活動を引退し受験を意識し始めたとき、何をどう勉強していけばいいのか分からず、焦りました。それまでは、ふだんの予習や復習はさぼりまくり、テスト週間に提出物だけをやり、前日に内容をつめこんでテストに臨むということをしていました。ようやく自分に合った勉強方法を見つけたのは、3年生12月のセンタープレテストの後になってからのことでした。少し遅かったと反省しています。皆さんには、いざ受験勉強だ!となったとき、すんなりと勉強に集中できるよう、1日も早く見つけておきましょう。参考までに話しておくと、私は曜日ごとに各教科についてノルマを決め、それを紙に書き出してセンターまでやり続けました。例えば、英単語は300語ずつ毎日、英文法確認○○ページずつ月水金、英語長文や模試の解き直しを土日、といった感じです。

II. 補習は遅刻せず休まず行き、必ず復習すること

先輩から「補習は絶対毎日行くべき!」と聞いていたので、私は夏の補習を毎日行きました。しかし「補習行ったり、家では休憩だ~」という気持ちになってしまい、家では全くといつていいほど机に向かいませんでした。案の定、夏休み後の模試は夏休み前と変わらずボロボロ。「毎日補習に行ったのに!」とその時は思っていましたが、あとから思えば当然の結果です。夏補習の反省をふまえて、冬の補習はしっかりと意識を高く持ち続けるように心がけました。冬休みのセンター演習は、センター一本番に近い雰囲気の中で本番に近い問題を解く絶好の機会でした。間違ったり、難しかった問題は必ずその後に家や学校で見直し、ここでさらに力をつけていく人が多かったのではないかと思います。

III. 志望校への意志を強くもち、最後まで諦めないこと

今現在、受験を意識している人も、あまりしていない人もいるかと思います。日々の過ごし方はそれぞれですが、携帯を触り続けたり友達と遊んだりする1日も、単語を少しでも多く覚えて志望校合格へ一歩近づく1日も、同じ1日です。偉そうに言える立場ではありませんが、受験が終わった後に後悔することのないよう過ごしてください。この先うまくいかず、伸び悩むことがあっても諦めず全力で努力して受験に臨みましょう。結果がたとえ思うようにならなくても、それまで頑張り続けたことはきっとこれから自信につながるはずです。よく言われていることですが、努力をして損はありません。

最後に、私は記述模試もマーク模試もずっと第1志望校E判定でしたが、センター試験でB判定になることができました。正直当たって砕ける覚悟でしたが、諦めなくて良かったと本当に感じました。この1年が頑張りどころです。周りの人と意識を高めあいながら頑張って下さい。応援しています。

85 愛知教育大学 初等教育教員養成課程 保健体育選修合格 / 35回生 2016年(平成27年度)卒

1、2年生の間は、テスト勉強や週末課題は真剣にやっていましたが、授業の予習などは先生に怒られない程度に最低限やるだけの部活中心の生活を送っていました。また、具体的にどの大学に行きたいかということをあまり考えていませんでした。

はっきり第一志望の大学を決めたのは2年生の南高祭が終わった頃でした。進路希望調査で受験したい大学を書くことになり、進路室に相談しに行った時です。そして志望大学を決めるとき同時に受験に向けて勉強を始め、3年生になって第一志望の大学から合格通知をもらうまで、一度も第一志望を変えることはありませんでした。

受験に一番大切なのは”この大学に行ってやる！”という気持ちです。このモチベーションを高く維持するためには、授業、朝学、補習、模試をひとつひとつ大切にして、限られた時間の中で覚えることはたくさんあるので、後回しにせずに効率良く繰り返し、コツコツと続けて、1時間、1分、1秒でも多く勉強して自信をつけていくしかないです。

先生を信じて、仲間とともに最後まで油断せず、自分のペースで戦い抜いてください！応援しています。

86 岐阜県立看護大学 看護学部 看護学科合格 / 35回生 2016年(平成27年度)卒

私は高校1年生や2年生の時、決して成績優秀と言えるような生徒ではありませんでした。

3年生最初の模試もE判定ばかりでした。国公立はおろか4年制大学も諦めかけていました。しかし、このままではダメだと気づき、勉強する習慣をつけました。

まず、朝型の生活に変えました。そして、朝5時に起きて、英語や日本史を勉強するようにしました。受験は朝から行われるので、朝から頭がはたらくようにしました。

私は英語が苦手で3年生になるまで習熟クラスになったことがありませんでした。ですが、夏休みに英語を中心に勉強したところ、夏休み後からどんどん成績が上がってきました。英語は、夏休みの間に単語帳や参考書がクタクタになるまで使い込むくらいの意気込みでやりました。例えば、1日に50問や100問と決めて、次の日は前日の復習と100問をやるというように繰り返し書いて覚えました。少しでも分からぬ所があったときは、すぐに先生に質問に行きました。先生に聞くと自分が納得するまで丁寧に教えてくれるし、覚えやすいです。私は本当に苦手な単元を全部教えてもらったこともあります。困ったときは先生を頼ってください。

日本史はもともと得意だったので1位をとるつもりで勉強していました。全部の教科に言えることですが、繰り返しやることが大切です。得意な教科も不得意な教科も同じくらいに頑張ってください。

そして、これから成績がどんどん上がっていく人も出てくると思いますが、油断にだけは気を付けてください。私は初めて模試で志望校にA判定がついたとき、とてもうれしくて舞い上がっていました。そのため、少し気がゆるんで勉強量が減り、次の模試で判定が下がってしまいました。それからは模試がすべてではなく、通過点だと考えるようにしました。ですから、今模試の判定がよくなくても諦めないでください。

これから本当につらい時期が来ると思います。周りの人たちだけ成績が上がって自分は全然上がらないこともあるかもしれません、コツコツと積み上げたものはきっと最後に自分の元に返ってくると思います。自分を信じて目標を高く持って頑張ってください。

87 山口大学 工学部 感性デザイン工学科合格 / 35回生 2016年(平成27年度)卒

僕は受験を終えてみて、毎日さぼらずにコツコツ勉強することがどれほど大変なことなのかが分かりました。でもそれを乗り越えると、ちゃんと頑張った分、自分に返って来ることも分かりました。

初めは数学が得意ではありませんでした。ですが、毎日先生が出す問題を解いていくうちにできるようになりました。時には難しい問題に出会うこともあります。そのときは、先生や友達に聞き、ちゃんと理解した上で、今度はその問題について他の人に説明できるようになるまで復習しました。そして、それぞれの問題に納得することがすごく大事だということを学びました。

そして英語。英語は本当に重要な教科だと思います。センター試験で英語の点数が悪いと、私立の

センタープラスなどで大きく遅れをとってしまいます。逆に英語がよければ、受験において優位に立てるということです！英語が苦手な人も最低3桁を目標に頑張ってください！

最後に、模試などで成績が上がらず挫けそうになるときもありますが、先生を信じて補習をさぼらず、定期テストも頑張ってください！3年生になると、定期テストで手を抜く人が出ますが、流れされずちゃんと勉強してください！入試にでます！！定期テストの勉強もれっきとした受験勉強です。

88 秋田県立大学 システム科学技術学部 電子情報システム学科合格／35回生 2016年(平成27年度)卒

僕は、1、2年はずっと最下位に近い順位をとっていました。でも最後まで諦めずに頑張れば、国公立大学に合格できるということを、今そんな順位をとっている人にも知ってもらいたいです。

僕が一番大切だと思うのは補習です。僕は業後や夏休み冬休みの補習に、ほぼ休まず参加してきました。夏休み冬休みの補習の予定表を見たときは、講座の多さに腰が引けました。しかし、毎日しっかり取り組んでいくうちに、あっという間に時間が流れ、夏休み冬休みの補習はすぐ終わりました。だから、補習が多いとか長いとか思わず、毎日、がむしゃらに勉強すればいいと思います。

あと、朝学も大事だと思います。早朝の登校はつらいことですが、朝早く来た分だけ勉強ができるし、学校に行けば自分以上に頑張っている仲間もいるので頑張れます。今思えば、国公立大学に合格した人は、みんな朝学に来ていたような気がします。受験が終わってからやっと「受験は団体戦」という言葉の意味が分かった気がします。

最後に僕が一番言いたいことは、最後まで諦めずに頑張れば結果は必ず出るということです。センター試験に失敗してE判定が出たとしても、諦めなければ絶対に結果は出ます。結構いい私立に合格したために、かえって国公立大学2次試験の勉強のやる気がなくなってしまったという人もいましたが、そんな中、僕はスマホも封印してひたすら勉強をしました。その結果、合格することができました。みなさんも最後まで諦めずに頑張ってください。

89 滋賀県立大学 環境科学部 環境政策・計画学科合格／35回生 2016年(平成27年度)卒

2年生の2月、初めてのマーク模試の結果にとてもショックを受けました。そして、あの日から僕の心の中で勉強に対する何かが変わり始め、授業はもちろんのこと、自主勉強にも励むようになりました。ですから、皆さんにも自分が変われるようなきっかけがあつたらいいなと思います。そのようなこともあり、定期テストで2年生の始めには下位10位に入っていた成績が、最終的に上位20位代にのることができ、3年になって初めての記述模試では、数学と物理で上位10位代という結果を残すことができました。しかし、マーク模試では、なかなか思うように点数が伸びず、「すぐに結果は出ない。長い人では5ヶ月以上かかる人もいる。」という言葉を信じ、「自分はその長い人なんだ。」と自分に言い聞かせて勉強に励みました。また、学年主任の先生の口癖で、「まいた種は必ず生える、まかぬ種は必ず生えぬ」という言葉も励みになりました。（やる気をアップするために、その言葉を紙に書いて部屋に貼っていました。）受験が近づいても模試の成績が伸びず、精神的にも本当に辛く、夏休み頃に「もう私立でいいじゃないか。」と、考えが逃避的になり、友達にも悪影響を与え、先生やクラスのみんなに迷惑をかけました。そんな時、多くの先生が声をかけて下さり、友達も「国公立目指そうよ。」と言ってくれ、再び勉強に励むことができました。この時、「受験は団体戦」という言葉を、やっと実感することができました。だから皆さんも不安を感じた時は、先生に相談し、友達と励まし合い、クラス一致団結して国公立大学合格を目指して下さい。そうすれば、きっと結果に結びつくはずです。

最後に僕から言いたいことは、南高生であることが何よりも強みである、ということです。生徒のために尽くして下さる先生方、学習環境が良く雰囲気を高めてくれる学校、これはどこの学校にも負けていないと思っています。だから皆さんは、先生を信じ、仲間と高め合い、最後まで諦めないで頑張って下さい。応援しています。

90 岐阜大学 工学部 機械工学科合格 / 35回生 2016年(平成27年度)卒

僕が勉強し始めたのは3年生になってからです。2次試験で使った科目は英語、数学、物理です。得意科目は英語、逆に理系科目は全然得意ではありませんでした。そんな僕がどんな勉強をしていたかを書こうと思います。

【英語】

語彙に関しては、授業や補習でやる長文演習の中で覚えていました。本文中のわからない単語、イディオムをすべて紙辞書で調べてテキストの余白に書き込んでいました。単語は品詞まで、名詞なら可算か不可算か、動詞なら他動詞か自動詞か、さらに他動詞ならその意味での用法まで。

(SVO/SVOC/SVOO/SVO to O/SV that 節/SV doing/SV to do などです。) そして、一度調べたものには辞書にマーカーで線を引いていました。調べたことがあるという印です。単語とイディオムはこんな感じです。

長文については、「毎日プリント」をスラスラ読めるようになるまで、毎日音読していました。スラスラ音読できるようになると、不思議なくらいに長文読解もスラスラ理解できるようになります。

リスニングも忘れないで下さいね。リスニングも練習すればできるようになります。正解率8割9割も狙えます。時間を見つけては解説の本文を見ながら音声に合わせて発音していました。学校で使う教材です。目標としては音声のスピードを少し追い越せる程度まで。同じ教材の繰り返しで結構です。重要なのは慣れです。

最後に、個人で教材を買う必要は全くありません。他の教科も同じです。自分は学校で買った教材だけでセンター試験で結構とりました。

【数学】 【物理】

教科書を大切にしてください。分からぬことがあるときには、定義やその単元の導入のところから理解できるまで教科書を読み込みました。また、友達に質問して、理解できるまで聞き直しました。「なんで。」「どうして。」「わからなかった、もう1回。」というような感じでした。それでも解決しないときは、一旦自分で考えをまとめた後に先生に質問に行っていました。

また、公式を機械的に覚えてしまうのが嫌だったので、公式を自分で導き出して覚えていました。

【その他のセンター科目】

やはり自分で教材を買う必要はありません。授業、補習、学校で使う教材、先生からもらうプリントをフル活用してください。2学期期末考査が終わると、授業も補習も教材もすべてセンター対策用になるので心配しなくても大丈夫です。これをフル活用すればなんとかなります。

最後に、自分の進学先は大学学部学科までは第1志望と同じですが、学科の中の第2志望のコースに合格しました。やっぱり第1志望のコースに行きたかったです。センター試験も大事ですが、センター試験の得点はスタートラインに過ぎません。本当に大切なのは2次力です。数学、物理はセンター対策が始まるとまでは、ただただ2次力を養ってください。この1年は相当キツイですが、最後まで頑張ってください。

91 福井大学 工学部 電気電子情報工学科合格 / 35回生 2016年(平成27年度)卒

僕は国立大学を2次試験の後期で合格しました。前期では不合格でしたが、諦めず最後まで粘って

頑張れたと思っています。そこで、勉強法全般についてと、前期の失敗談や後期の勉強法について話したいと思います。

まず勉強法全般についてです。僕は勉強をなるべく自宅以外でするようにしていました。家にいるとだらけたり、テレビを見たりして、無駄に時間が過ぎてしまうことがあるからです。また、朝も生活リズムが整うので、学校を活用し続けました。また、冬休みのセンター演習は、ただ解いて答え合わせをするだけでは意味がなく、復習を大切にすることで成績が伸びるのだと実感しました。

前期での失敗談は、前期前夜に胃腸風邪にかかってしまい、当日別室で受験することになり、思うように自分の実力を発揮できなかったことです。後輩の皆さんにはこんな失敗をして欲しくありません。体調管理はしっかりと行ってください。

後期については、前期が終わった後すぐに勉強に移りました。この時期は、卒業式もあり、なかなか勉強する気分にならないと思います。後期は前期に受かった人が受験勉強から抜けるために、仲間が減ってしまい辛かったです。ですが、後期を受験する人は同じ条件なので、差をつけるチャンスだと思って勉強に取り組むうちに、モチベーションが上がっていったように思います。

最後に、この一年間上手くいかないこともたくさんあると思いますが、後悔しないように一日一日を大切にして頑張ってください。

92 弘前大学 理工学部 数物科学科合格 / 35回生 2016年(平成27年度)卒

僕はセンター試験の前までは、自分の好きな教科だけ出来ればいいと思っていた。マーク模試がD判定でも、記述模試がA判定だからまだ大丈夫だと思っていました。でもセンター試験のあと、私立大学の一般入試で苦手な英語を避けるために、個別試験で英語を必要としないセンタープラス方式で受験しましたが、センター試験の結果も良いわけではなかったので勝負出来ず、あまりいい結果が出ませんでした。国立大学を受験するときも、センター試験の出来の悪さが気になって全然集中できませんでした。好きだった物理もいつも解けていた問題が解けなくなってしまいました。好きな科目だけでなく、嫌いな科目もこつこつとやった方がいいと思いました。

数学の補習では、最初こんな難しい問題は解けないと思っても、予習・授業・復習をきちんとすれば解けるようになることが分かりました。だから夜遅くまで一人で悩んでいるよりも、早めに寝て授業に集中したほうがよいと思います。僕がこのことに気が付いたのはセンター試験の後だったので、今ではとても後悔しています。

物理は文章の情報を図に直すことが大事だと思います。困ったらまず図に描くことです。物理は問題を解くだけでなく理解をすることが重要です。そのためには教科書を読む時間をしっかり取った方がよいと思います。

漢文は句形を覚えることが大切です。僕は1年生の冬から漢文はやっていたので、3年生では楽が出来ました。やることは早めにやることが大事だと思いました。僕の受験は後悔ばかりだったので、皆さんは後悔のないように頑張ってください。

93 静岡大学 工学部 機械工学科合格

立命館大学 理工学部 機械工学科合格 / 35回生 2016年(平成27年度)卒

僕がした受験勉強について書いていきたいと思います。少しでも参考になれば幸いです。

僕は家では勉強に集中が出来なかつたものですから、平日は学校での補習が終わったあと、図書館へ行き、閉館までやっていました。週末も図書館へ行っていました。自分が勉強に集中できる場所があると、あまりやる気がない時でも周りがやっているため、否が応でも勉強を始めることができ、それがとても助かりました。

長時間勉強に集中するためのひとつのコツとして、教科を変えることで気分転換をしながら勉強す

るのが良いと思います。そうすることで飽きを感じずに勉強に集中できました。

受験勉強で一番大事なのは、自分が今、どれだけできるかをしっかりと把握することだと僕は思います。センター試験はすべての教科が必要です。理系科目の勉強で普段からあまり時間を割けなかった文系科目には、授業や補習のときに集中して取り組み、とりわけ古文単語や英単語は毎日をこつこつ覚えました。また直前には過去問をたくさん解きました。センター試験の出題方式や時間配分に慣れる点でも、できるだけ多くの過去問を解くのがいいです

2次試験については、大学によって様々です。対応の仕方も大きく違います。そのため早めに志望校を決めるることは非常に大事です！決まつたらまずは志望校の大学についてよく調べて、入試の傾向を掴むことです。基礎をしっかりと作ってから問題演習に取り組んで下さい。土台も何もないのに自分のレベルにあってない問題をやるのは、はっきり言って時間がもったいないです。そこで、模試を活用してください。何ができるなかつたかをしっかりと把握し、弱点を見つけて補強していくことが大切で、それを繰り返すことであらゆる問題ができるようになっていくのです。この時、重要な事柄をひとつのノートにまとめておくと、模試前や試験前の少しの時間に再確認できるのでお勧めです。そして模試の結果をふまえて大学の傾向に応じて勉強を進めていくことが、第一志望の大学に合格するのにとても良いと僕は思います。

受験本番はだれでも不安になります。そのときに自分に自信をもって迎えられるよう悔いのないよう頑張ってください！応援しています

94 東北大学 工学部 機械知能・航空工学科合格

早稲田大学 基幹理工学部 学系II合格 / 35回生 2016年(平成27年度)卒

僕は一宮南高校にギリギリで合格し、特に目標も持たず入学して、1年生の時のテストではいつも200番くらいでした。進路希望調査では、一応国公立大学と書いていましたが、心の内では自分はどうせ私立にしか行けないんだろうと思っていました。それから2年ほど経った今、僕は過去の自分からは想像もつかない大学に合格することができました。今回はこの経験を踏まえて受験勉強において僕が心がけてきた事や、反省点などを後輩の皆さんに伝えようと思います。ただ、細かな勉強法などは人によって違うものだと思いますので、なるべく受験全体に関係することを書きます。

まず一番大切だと思うことは、目標を持つことです。僕は初め、大学に行ったらやりたい事がありながらも、それとは関係のないなるべく偏差値が低い大学ばかり探していました。でも特に关心もない大学を目指して勉強していても、全くやる気が出ませんでした。ある時、ふと自分のやりたいことを思い出し、それができる大学を調べ始めました。候補に挙がったのは、難しい大学ばかりでしたが、一つ一つ大学を調べていくと、研究は自分が求めていたものだし、楽しそうなサークルがあったりして、気がつけばその大学に行きたいと思うようになりました。すると、勉強のやる気が出てきて、成績もどんどん上がり、目標に向かって着々と近づいている実感が湧いてきました。結局言いたいことは、行けそうな大学ではなく、行きたい大学を目指してほしいということです。そのために休憩時間で大学を調べたりして、理由は何でもいいので自分がいきたいと思う大学を見つけてください。目標を明確にすることによってモチベーションも上がるはずです。

加えて、早いうちに過去問を見ておくことも大切です。その時点では解かなくてもいいので、頻出分野などを見つけておくと良いです。特に注意して欲しいのは、自由英作文はあるかどうか、物理で原子は出るかどうか、化学で高分子は出るかどうかなど、具体的な傾向です。過去問研究を通して勉強計画を立てていくと良いと思います。今年のセンター試験の倫理は、教科書を見ながらでもいいので早めに解いておくことをお勧めします。

受験勉強を始めた時からやっておくべきだったと思うことは、復習をしっかりとすることです。このことはこれまで何度も聞いてきたと思いますが、これからも何度も聞くことでしょう。僕は9月くらいに復習の大切さに気づきましたが、気づくのが遅かったと後悔しています。それからは間違え

た問題は次の日の朝にしっかり見直し、問題集は分野ごとに繰り返し解きました。毎日やることが多くて大変だと思いますが、復習だけは欠かさずにやってください。

また、誰にでも苦手科目があると思います。しかし成績を上げる一番の方法は苦手を克服することだと思います。別に得意にならなくてもいいので、足を引っ張らない程度にできるようにしましょう。得意科目を伸ばすのはその後です。受験は総合点勝負ということを忘れないで下さい。理系は2次勝負だからといってセンター試験を軽視しないで下さい。センター試験の点数でその後の気持ちも結果もかなり変わります。

最後に、正直言って受験は結果が全てです。しかし裏を返せば、模試でいくら悪い判定を取ろうと志望校に合格すれば成功なのです。2次試験本番と形の違う模試の結果に一喜一憂せずに、ひたすら自分の目標を追い続けて下さい。応援しています。

95 岐阜大学 工学部 化学・生命工学科合格

同志社大学 理工学部 機能分子・生命化学科合格／35回生 2016年(平成27年度)卒

僕からの理系の受験アドバイスは3つあります。

1つめは「文系科目から逃げないこと」です。理系だからといって文系科目をおろそかにしていると痛い目を見ます。とは言っても、文系科目が苦手だから理系に来たという人も多いことでしょう。(英語とか古典とか。) そんな人はその科目的単語だけでも覚えるようにしましょう。単語がわかるだけでも、センターレベルの英語や古文は文章の意味がやんわりとわかるようになります。僕も古典が苦手だったので、古文単語を授業前的小テストを利用して覚えました。もちろん、やんわりとでは問題が解けないことも多いので、細かい文法事項などもある程度は覚えなければいけません。

2つめは「理系科目は一冊の問題集を極めること」です。周りのみんなが買っているからといって次から次に問題集を買っても、どれからやればいいかわからなくなったり、量が多すぎてやる気がなくなったりしては意味がありません。(たくさんの問題集でもこなせる人はそれでも構いません。) それよりも、自分に合った一冊を何回も解いたほうがいいです。しかし、どの問題集が自分に合うかわからないこともあるでしょう。そんな時は初心に立ち返り、学校で購入した問題集を解くのも一つの手です。学校で購入した問題集は基礎から応用までバランスよく網羅されています。僕も理科の2科目は学校で購入したセミナーだけをセンターから記述まで勉強しました。(とある先生曰く、「セミナーを3周すれば東大の問題も解けるようになる」そうです。)

そして3つ目は「自分のペースを守ること」です。周りの話を聞いて自分よりも勉強時間が長い(もしくは短い)と思って、今までの勉強のペースを変えてしまうことはお勧めしません。もちろん、勉強時間を増やしてそれが自分に合っていれば一番いいのですが、無理な増やし方をするとストレスになり、逆に勉強効率が下がることもあります。友達と切磋琢磨することも大切ですが、自分に合ったペースを見つけて守ることも大切です。

以上のアドバイスはあくまで個人の意見です。しかし、このアドバイスが少しでもみなさんの役に立てばと思います。最後に、僕が好きな歌のフレーズを一つ:「疑うより信じてみる、自分の可能性」。自分ならできるという思いを胸に、全力でこの一年を駆け抜けてください。

96 名古屋工業大学 工学部 電気・機械工学科合格

同志社大学 理工学部 エネルギー機械工学科合格／35回生 2016年(平成27年度)卒

一年を通して自分の受験勉強を振り返ると、特に大切な時期が二つありました。一つは一学期。もう一つは夏休みの後半です。

一学期はとにかくがむしゃらに勉強したほうがいいです。数学で分からぬ問題が出たら答えを安易に見るのではなく、チャートとかで似たような問題を探したりして自分で考えて解答をつくる。こ

ういう努力の差が後で大きな差となっていくことを、身をもって感じました。この時期は成績が伸びなくとも、こつこつと努力することが大切だと思います。

自分にとって夏休みの後半は勉強法改善の時期でした。ぜんぜん英語の成績が伸びず、これは完全に勉強の仕方を間違えていると思いました。解決策を考えましたが思いつかず、とりあえず成績が伸びている人たちに話を聞くことにしました。そこで、自分の勉強法のどこが悪く、どこが良いのかに気づくことが出来ました。改善というものは、改善すべきものがないと成り立たないものです。一学期にちゃんと勉強したほうがいいと思うのは、こういう理由です。少しぐらいやり方を間違えてもいいから行動を起こしましょう。

最後に、自分が感じた少しでも受験で失敗しない方法を書きます。人にもりますが、なるべく全ての教科を勉強することです。例えば、今年のセンター試験は古典がかなり簡単だったと思います。古典が苦手だった人でも満点が取れたと喜んでいるのを耳にしました。しかし、最初から、古典は難しいから感で答えようとしていた人が点数を稼げたかというと、そういうことではないと思います。勉強していたから取れたのだと思います。取れるはずの得点が取れないのは残念です。苦手科目で差をつけられないことが成功の鍵と言っても過言ではないと思います。

実りある一年となることを願っています。